

1 部

学習サポート

各種申込締切について

『試験・スクーリング情報ブック』（通信教育部ホームページ）にてご確認ください。

- ・学年暦→p. 4～5 ・通信教育部カレンダー→p. 11～13
- ・演習・実習科目関連締め切り等 社福→p. 23～26 精保→p. 27～28

2026年4月以降の変更・留意点

●受講許可証について

2027年度から「スクーリング受講許可証」はポータルサイトのみで通知します。準備期間として2026年度夏期Ⅱスクーリングより「スクーリング受講許可証」は郵送とポータルサイトのお知らせ画面（カテゴリ別お知らせ）の両方で通知します。

令和8年熊本地震・各地の豪雨で 被災された皆様へ

7月28日に発生した熊本県を震源とする地震、各地の豪雨により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

教科書や副教材（『学習の手引き』、レポート提出台紙など）に破損などの被害を受けられた方には無料で再交付をいたしますので、メール等にてお申し出ください。

また、被災により配慮等を希望される場合は通信教育部へご相談ください。

【重要・再掲】2025年度4月以降の冊子版の副教材について

『試験・スクーリング情報ブック2024』 p. 18他で既報の通り、『レポート課題集A・B・C』『試験・スクーリング情報ブック』『With』は2024年度（2025年3月）をもって冊子版（印刷物）での配付を終了いたしました。各電子版（PDF）を通信教育部ホームページにて閲覧してください。

【重要・再掲】2025年度以降の各種申し込みについて

『With』冊子版の廃止に伴い、科目修了試験、会場スクーリング、各種演習・実習指導科目のお申し込みはWeb上での受付となります。

科目修了試験・会場スクーリングはポータルサイトでのお申込みとなります。

各種演習・実習指導科目につきましては、個別のご案内となります。具体的な方法については『With』各号やポータルサイト等でお知らせいたしますので、ご確認の程お願いいたします。

【再掲】幼保特例講座の延長に伴う対応について

令和6年6月に本特例制度にあたり2030年度までの延長が通知されました。これに伴い、本学における「幼保特例講座」を延長して開講させていただきます。

なお、2030年度に達する前に本学における幼保特例講座を終了する可能性もございますので、受講中の皆さまにおかれましては、お早目の単位修得を行うようお願いいたします。

国家試験って??

教員 MESSAGE

教授 三城 大介

愚痴です。もっと言えば老人の繰り言、社会福祉士や精神保健福祉士の国家試験っていったいなんなの?? 为什么呢? なんだと思います?

大学の教員になって24年、試験オタクの私は趣味として精神保健福祉士と社会福祉士の国家試験対策を担ってきました。出題傾向を分析するのは楽しいし、好きです。しかし、この資格の為の国家試験の有り様は、私にとって謎に満ちています。

社会福祉士も精神保健福祉士も、社会福祉振興・試験センターの説明によると、精神保健福祉士法施行規則や社会福祉士及び介護福祉士法施行規則に基づき、問題の総得点の60%程度を基準として、問題の難易度で補正した点数以上の得点の者を合格とすると説明しています。

2025年度に実施された精神保健福祉士では、合格基準が総得点132点に対して62点、つまり正答率47.0%で合格。社会福祉士は総得点129点に対して50点、38.8%の得点率で合格しています。これは2025年度だけが特別ではなく、こんな状況が続いています。

ここ数年、社会福祉士の合格率は、以前の20~30%だったものが直近数年は50~60%台へと上昇し、精神保健福祉士は60%強で推移しています。

一方、医師国家試験や看護師国家試験ではどうでしょう。どちらも80%以上の得点率が無ければ、合格できませんし、合格率自体は80%から90%未満で推移しているようです。

得点率が5割を下回っても合格できる国家試験と8割以上の得点率を求められる国家試験って??あなたはなにを想像しますか?

三城には疑問符が頭の中に立ち並ぶだけです。

もちろん、専門職になるためのゲートであり、名称独占だろうが、業種独占だろうが、このゲートをくぐらないと専門職としてのスタートラインには立てません。

九州出身の私が仙台に来るまでは、看護系学部非常勤で社会保障や社会福祉のシステムを看護学生に教えていました。ついでに下手の横好きで、暇なときは看護学生の国家試験勉強にも付き合い、ついでに医学部生の試験対策にも茶々を入れていました。

そこで感じたのは、それぞれの国家試験の出題傾向が臨床に立つ医師や看護師にとって実践として必須の知識が網羅されたもので、周辺領域である心理学や社会保障、福祉制度も患者の背景を知るうえで極めて実務的な知識を要求されていると感じました。問題構成からして、正答率80%以上を求められるのは大いに頷けます。

一方、正答率30%や40%以上で合格して臨床に立つ切符を持つことができる国家試験の意味付けはどう求めればいいのでしょうか？24年間国試対策に携わってきたこの資格のオタクの私が、「あんた誰？」って呟くような思想家を持ってきたり、日本語の問題だよねって設問だったりします。

腹を抱えて笑ったいつそやでは、SVに関する問題で、「指示的機能」で×ってものでした。もちろん正解は「支持的機能」ですが、語感？音の響きで間違いを誘う？？？つもりだったのでしょうかね。ここまで質が落ちたかと呆れました。似たような話はたくさん出てきます。

私が気になるのは、これを受ける学生がどういった印象評価を抱くのか、そもそもどんな気持ちで対策を進めればいいのかです。

毎年この時期、7月にこの原稿を書いています、通信教育部では本格的に国家試験対策講座が始まっていますが、学生から「具体的にどこをどう勉強すればいいのかわからない」とか「どこから手を付けて良いのかわからない」といった声が続出、試験が終わると、業者が出す予想回答で自己

採点し、「半分もできなかったでしょう」となり、結果が出ると、たぶん不合格者から「対策講座や他のネットの情報はあてにならない、同じ問題なんか出なかった。」と囂々と批判が飛び交います。

そうなりますよね、そういった反応が飛び交うのは至極当然のことだと感じるのは私だけではないはずです。

でも敢えて、この原稿は通信の学生に宛てたものなので、学生にも苦言？愚痴？を呈すると、精神保健福祉士や社会福祉士って現状ではこんな試験なんだよって、理解してから対策に取り組んで欲しいですね。

防衛機制って言葉はごぞんじですよね？

その人が活用する防衛機制は、その人の心の成熟度によって発達していくってことも知っていましたか？

防衛機制とは成熟した防衛機制と不健康的な防衛機制に分けることができ、その不健康な防衛機制はさらに病的・未熟・神経症的という3つの段階があり、下の段階であるほど、子どもっぽい反応の仕方であるといえます。

病的防衛は、最も未熟な防衛機制であり、5歳以下の子どもによくみられるようなパターンです。否認や躁的防衛がみられます。

未熟な防衛は、15歳ごろまでにみられる防衛機制です。短期的には苦しい気持ちを和らげるものですが、繰り返し用いると対人関係上のトラブルにつながる可能性があります。退行や解離、投影といった反応が目立ちます。

そして、神経症的防衛は、大人になっても比較的によくみられる防衛機制で、生活に支障を及ぼさないことも多いでしょう。しかし、繰り返し用いられると無意識的にストレスをためてしまったり、問題を避けてしまったりすることがあります。抑圧や反動形成、合理化が代表格になります。

「講座で調べるって言われたから調べたのに出なかった」とか「講座は時間の無駄」、「金返せ」なんて言葉が、先ほどの囂々と飛び交う批判の具

体例です。

正答率が30～40%で合格するってことは、数か月の対策ではカバーしきれない、どんな問題が出題されるか予測がつけ難いってことと直結します。そして、いつか受験するであろう皆さんの多くが社会人です。多くの学生にとって何れ来る国試の後に、退行して子どもっぽい防衛機制を発揮しなくても済むよう、このある意味難解な国家試験に向き合う覚悟と意識は、早い段階から持っていたいですね。

